

地方独立行政法人神奈川県立病院機構
中期目標の期間における業務実績評価書
(中期目標期間：平成 27 年度～令和元年度)

令和 2 年 9 月

神奈川県

地方独立行政法人法（以下「法」という。）第28条第1項第3号に基づき、中期目標期間の最後の事業年度終了後、中期目標期間における中期目標及び中期計画の業務実施状況に対し調査及び分析を行い、その結果を考慮して業務実績全体について総合的な評価をして評価（以下「期間評価」という。）を行う。

1. 期間評価の基本方針

業務実績に関する評価は、「地方独立行政法人神奈川県立病院機構（以下「県立病院機構」という。）の評価の基本的な考え方について」（平成30年6月4日決定）に基づき、次のとおり行う。

(1) 基本方針

- ア 中期目標の達成に向けて、県立病院機構の中期計画の事業の進捗状況を評定する。
- イ 県民への説明責任の観点から、評価を通じて、中期目標の達成状況や業務の実施状況を分かりやすく示す。
- ウ 県立病院機構の組織・業務運営等に関して改善すべき点を明らかにすることにより、法人運営の質的向上に資する。

(2) 評価区分

ア 項目別評価

中期目標の達成状況・成果を中期目標の見込み及びそれに基づく中期計画の項目ごとに、法人が自己評価を行う。

県立病院機構が提出する自己評価を付した中期目標期間の見込における業務実績に関する報告書を基に、業務実績の検証を踏まえ、評価を行う。

イ 全体評価

項目別評価の結果及び業務実績の検証を踏まえ、中期目標の達成状況と業務実績全体について、総合的に評価を行う。また、必要がある場合は、業務の改善その他の措置の命令を行う。

(3) 意見聴取

神奈川県地方独立行政法人評価委員会条例第3条第2項の規定に基づき、神奈川県地方独立行政法人神奈川県立病院機構評価委員会からの意見を聴取する。

2. 全体評価

県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関しては、中期目標を概ね達成したが、経営基盤の強化に関しては、中期目標を達成できず、改善の余地がある。

第二期中期目標期間において、県立病院機構は、①高度・専門医療の提供、研究開発、②広域的な対応が必要な救急医療、災害時医療、感染症医療、③地域の特殊性などから地域だけでは実施が困難な医療、④各県立病院の特性を生かした医師・看護師等医療従事者の人材育成など、県民に対して質の高い医療の提供に努め、着実な成果が認められた。

その一方で、経営基盤の安定については、給与費や材料費の増加等により、累計の純損失は81億400万円となり、研究研修費を除く医業収支比率118.7%となり、目標とした118%以下を達成することができなかった。なお、最終年度となる元年度は、医業収益の増加や、費用の削減に取り組んだことから、総損失は4億4,000万円と前年対比

で20億8,200万円の大幅な改善が図られるなど、経営改善の努力が認められるが、引き続き収益確保と費用削減に取り組み、経営基盤の強化を一層行う必要がある。

また、平成29年度には、ハラスメントについて県立病院機構の内部規定に則った対応がされていない事項や、組織運営上、情報の共有化やコミュニケーションの確保という観点から課題が認められたが、内部統制委員会等を設置するなど、機構内の内部統制の推進が図られた。

以上のことから、総合的に評価した結果、県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関しては、中期目標を概ね達成しているものの、経営基盤の強化に関しては、中期目標を達成できず、改善の余地があると判断した。

(評価結果一覧)

小項目評価							見込	期間	
年度計画に対する進捗状況・成果を5段階(S・A・B・C・D)により評価	県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置に関する事項	段階評価	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年		
		項目数	43	45	45	45	45	45	45
		S	7	6	6	8	5	7	8
		A	32	32	24	23	20	26	21
		B	2	4	9	11	17	9	12
		C	0	2	3	3	3	3	4
		D	1	1	3	0	0	0	0
	評価不能	1							
	項目数	7	7	7	7	7	7	7	
	S	1	0	0	0	0	0	0	
	A	6	5	2	3	5	3	3	
	B	0	0	3	1	2	0	1	
	C	0	1	0	1	0	2	3	
	D	0	1	2	2	0	2	0	
小項目合計			50	52	52	52	52	52	

【評価基準の判断目安について】
 S評価：年度計画を大幅に上回って達成している（大幅に上回る）
 A評価：年度計画を達成している（ほぼ100%実施）
 B評価：年度計画を概ね達成している（80%程度以上）
 C評価：年度計画を下回っており改善の余地がある（60%～80%未満）
 D評価：年度計画を大幅に下回っており大幅な改善が必要である（60%未満）

評価方法	大項目	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年	見込	期間
小項目評価の結果を基に総合的に判断し、5段階(S・A・B・C・D)により評価	県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置に関する事項	A	A	B	B	B	B	B
	経営基盤の強化に関する目標を達成するためとるべき措置に関する事項	A	C	C	C	B	C	C

【評価基準の判断目安について】
 S評価：中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
 A評価：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
 B評価：中期計画の達成に向けて概ね順調な進捗状況にある。
 C評価：中期計画の達成のためには進捗がやや遅れている。
 D評価：中期計画の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。

【期間評価について】
 S：中期目標を大幅に上回る成果を達成している。
 A：中期目標を達成している。
 B：中期目標を概ね達成している。
 C：中期目標を達成できず、改善の余地がある。
 D：中期目標を達成できず、重大な改善事項がある

全体評価

評価方法	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
項目別評価を踏まえ、中期計画の進捗状況全体について総合的に判断し、記述式で評価	中期計画の達成にあたり全体として順調な進捗が図られた。	中期計画の達成にあたり全体として進捗がやや遅れている。	中期計画の達成にあたり全体として進捗がやや遅れている。	中期計画の達成にあたり全体として進捗がやや遅れている。	中期計画の達成にあたり概ね順調な進捗が図られた。

第二期中期目標期間における全体評価

期間評価
県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関しては、目標を概ね達成したが、経営基盤の強化に関しては、目標を達成できず、改善の余地がある。

3. 項目別評価

(1) 大項目「県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」

県立病院機構の各病院とも「質の高い医療の提供」を実施しており、B評価（目標を概ね達成している）と判断した。

各小項目の内容（抜粋）

中期目標		成果と課題
1	質の高い医療の提供に向けた基本的な方向性	<p>○特に高く評価すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採用試験内容の見直し、新専門医制度のプログラムの認定、薬剤師レジデント制度導入などにより、必要な人材確保と育成が図られた。 ・臨床研究の推進については、治験受託件数が大幅に増加するなど、着実に実施された。 <p>○特に今後改善を検討、または充実を期待する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き質の高い医療人材の確保と育成に努める必要がある。
2	医療機器等の計画的な整備の推進	<p>○特に高く評価すべき事項</p> <p>—</p> <p>○特に今後改善を検討、または充実を期待する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稼働率、採算性を考慮した計画的な医療機器の導入に努めるとともに導入効果の適切な検証を継続する必要がある。
3	医療機関等との機能分化・連携強化	<p>○特に高く評価すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療機関訪問や研修会・研究会の実施、地域医療連携システムの活用等により紹介、逆紹介件数を伸ばすなど地域との連携が図られた。 <p>○特に今後改善を検討、または充実を期待する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療構想を踏まえ、さらに地域との連携を図る必要がある。
4	ICTを活用した医療連携	<p>○特に高く評価すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5病院すべてにおける電子カルテシステムを稼働させた。 ・地域医療機関との診療情報の共有化など、ICTを活用した医療連携が行われた。 <p>○特に今後改善を検討、または充実を期待する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き患者の利便性やサービスの向上を目指したICT活用の取組みを進めていく必要がある。
5	安全で安心な医療の提供	<p>○特に高く評価すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害対策については、医薬品等の備蓄や定期的な訓練のほか、大規模災害における医療支援活動を実施した。 ・令和2年に発生した新型コロナウイルス感染症に対し、患者の受け入れをはじめ、各病院において必要な対応を図った。 ・医療安全対策については、研修の開催により、ヒヤリハット事例の報告が推進されるなど、充実が図られた。

		<p>○特に今後改善を検討、または充実を期待する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策への取組みを踏まえ、改めて地域医療機関等との役割分担や連携強化を図る必要がある。
6	患者や家族から信頼される病院に向けて	<p>○特に高く評価すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接遇研修の実施や、患者サービスの向上に向けた様々な取組みにより、全体としての患者満足度は高い水準を維持した。 ・病院の特性を活かした講座開催や広報誌発行など積極的な情報発信を行った。 ・医療メディエーター配置による相談支援体制の充実やクリニカルパスを拡大するなど、患者支援体制の充実が図られた。 <p>○特に今後改善を検討、または充実を期待する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者の待ち時間については、総合的にさらなる短縮を図る必要がある。
7	職員にとって魅力ある病院づくり	<p>○特に高く評価すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全職種を対象とした短時間正規職員制度等、ワーク・ライフ・バランスを取りやすい勤務形態を図るなど職員が働きやすい職場環境づくりに取り組んだ。 ・内部統制委員会や契約監視委員会を設置し内部統制の推進を図った。 <p>○特に今後改善を検討、または充実を期待する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、内部統制の推進及びガバナンスの一層の強化を図る必要がある。
8	各病院の主な機能 (1) 足柄上病院	<p>○特に高く評価すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の中核的综合医療機関として救急医療の提供など地域の特性やニーズに対応した医療等の提供が図られた。 ・地域包括ケア病棟の設置や在宅療養後方支援病院として、在宅療養を支援するなど地域包括ケアシステムに対応した医療提供が図られた。 <p>○特に今後改善を検討、または充実を期待する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療構想を踏まえ、地域医療機関等との機能分化・連携強化をさらに進める必要がある。
	(2) こども医療センター	<p>○特に高く評価すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内唯一の小児専門総合病院として、難易度の高い手術や難治性疾患等に対する高度・専門医療の提供が図られた。 ・周産期救急の基幹病院および小児三次医療施設として、他の医療機関では治療が困難な患者を積極的に受け入れた。 ・小児がん拠点病院として、県内外から小児がん患者を受け入れ、集学的治療を実施した。 <p>○特に今後改善を検討、または充実を期待する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・増床したNICU等を活用し、周産期救急医療のさらなる充実や人材育成を行う必要がある。

	<ul style="list-style-type: none"> ・小児がん拠点病院としてAYA世代のがん患者への長期フォローアップ体制の整備を行うとともに、医療的ケア児の支援等のさらなる充実を図る必要がある。
(3) 精神医療センター	<p>○特に高く評価すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神科救急医療システムの基幹病院として、精神科 24 時間救急医療を着実に提供した。 ・精神科の中核病院として、思春期医療、ストレス医療、依存症医療などの専門性の高い精神科医療の提供が図られた。 <p>○特に今後改善を検討、または充実を期待する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の依存症治療拠点機関として、県内の依存症医療の強化を図る必要がある。
(4) がんセンター	<p>○特に高く評価すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都道府県がん診療連携拠点病院として、集学的治療の充実強化や総合的な緩和ケアの実施など、質の高いがん医療を提供した。 ・重粒子線治療やがんゲノム医療、ロボット支援手術など最先端医療を提供した。 ・積極的なリハビリテーション治療や東洋医学的治療を行うなど、患者のQOLを高め、早期の社会復帰を支援した。 ・アピアランスサポートセンターの運営や、仕事と治療の両立支援など、がん相談支援センターの充実強化を図った。 <p>○特に今後改善を検討、または充実を期待する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重粒子線治療をはじめとする最先端医療のさらなる充実を図る必要がある。 ・併存疾患を伴う高齢者やAYA世代のがん患者など年代に対応したがん治療の提供の必要がある。
(5) 循環器呼吸器病センター	<p>○特に高く評価すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・循環器及び呼吸器の専門病院として、間質性肺炎センターなどの専門外来の設置による高度な医療を提供した。 ・心臓・呼吸リハビリテーションをはじめ、多職種によるチーム医療を推進した。 ・県内における結核治療の拠点として、総合的な医療を提供した。 <p>○特に今後改善を検討、または充実を期待する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療構想や対象疾患に対する医療ニーズに踏まえ、引き続き今後のあり方を検討する必要がある。

(2) 大項目「経営基盤の強化に関する目標を達成するためとるべき措置」

経営基盤の安定については、入院及び外来収益の増加に努めたものの、それを上回る費用の増加により、計画期間の累計純損失は81億400万円となった。

第二期中期計画期間の経営指標についても、研究研修費を除く医業収支比率が118.7%となり、目標（118%以下）を達成することができなかったことから、C評価（中期目標を達成できず、改善の余地がある）と判断した。

各小項目の内容（抜粋）

中期目標		成果と課題
1	業務運営体制の確立	<p>○特に高く評価すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の医療機関との連携強化による新規患者の獲得や効率的なベッドコントロールなどにより収益の確保に努めた。 <p>○特に今後改善を検討、または充実を期待する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 入院及び外来収益の増加に伴い材料費が増加し、累計の純損失は81億400万円となったことから、より一層の収益確保と費用削減を図る必要がある。
2	財務内容に関する事項	<p>○特に高く評価すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 元年度は、医業収益の増加や、費用の削減に取り組んだことから、総損失は4億4,000万円と前年対比で20億8,200万円の大幅な改善が図られた。 <p>○特に今後改善を検討、または充実を期待する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 最終年度では大幅な改善が図られたものの、第二期の経営目標は達成できなかったことから、財務内容の改善を図り、安定した経営基盤の確立に向けた経営改善に引き続き取り組む必要がある。

4. 評価委員会からの意見、指摘等

(1) 令和2年度神奈川県地方独立行政法人神奈川県立病院機構評価委員会委員

- 委員長 安川 文朗（横浜市立大学国際商学部教授）
 副委員長 河原 和夫（東京医科歯科大学大学院教授）
 委員 池上 秀明（神奈川県医師会副会長）
 委員 栗飯原 茂（医療法人社団こうかん会事務局長）
 委員 花井 恵子（神奈川県看護協会会長）
 委員 挽 文子（一橋大学大学院教授）

(2) 意見聴取の状況

- 令和2年7月10日（金）
- 令和元年度業務実績評価結果（案）について
 - 第二期中期目標期間の業務実績評価結果（案）について

(3) 評価結果に対する評価委員会の意見

地方独立行政法人神奈川県立病院機構中期目標の期間における業務実績評価書については、全体として妥当なものである。

(4) 各委員からの主な意見

- 目標値設定の根拠とその妥当性について手掛かりとなる数値等を示すことが必要である。
- 診療報酬や社会経済状況、医療資源確保の年度による特徴や、医療労働市場の動向を考慮し、ウェイトづけされた評価が必要。
- 医療経営が非常に厳しい状況の中、様々な部分で努力している。